

大学生の【コロナ禍のニューノーマル】な意識や行動探索 結果発表！

コロナ禍大学生が身につけた新しい力

“ボッチ行動力”

- ✓ キャンパスライフのオンライン化が長引き、リアルな接触を持てなくなったことで、大学生の間に“周囲に合わせられない”“一人ぼっち”という不安感が広がる
- ✓ 不安払拭のために様々な新しい行動を起こし、むしろコロナ前よりも活動的になった大学生
- ✓ 前例の無い状況下、様々なことに挑戦する中で、情報を集め他人に頼らず自律的に考え行動する力や、人間関係や消費にメリハリをつけ、意志を持って取捨選択をする力(=“ボッチ行動力”)を身につけたと思われる

公益社団法人 東京広告協会では、このたび、「大学生の【コロナ禍のニューノーマル】な意識や行動探索プロジェクト」の結果をまとめました。この取組は、東京広告協会が主催する「大学生意識調査プロジェクト FUTURE2020」が実施したものです。

例年、本取組では、大学生の意識を把握するために1000人規模の手渡し式アンケート調査を実施しております。しかし本年は、新型コロナウイルスの影響で例年の調査実施が難しいため、アンケート調査ではなく公開されている各種調査データや様々な事例、大学生の生の声といった定性的な情報を元に大学生の意識を探索するという形式で実施をいたしました。情報収集・分析・取りまとめなど一連の作業をすべて大学生自らが行っています。

各種データや情報の探索・分析を通して、コロナ禍でリアルな人間関係が乏しくなる中、大学生が人間関係における不安や危機感を抱いていることがわかりました。一方、そんな中で、不安感や危機感に抗うように様々なことに挑戦し、より自律的に意志を持って考え行動する、新しい大学生像も見えてきました。今回の分析では、大学生がコロナでつけた新しい力を“ボッチ行動力”と名付け、ボッチ行動力を持つ大学生の像を浮き彫りにしております。

今回探索した内容については、来年度以降定量調査などで検証することも現在検討しております。

【主なピックアップ】

- ① オンライン化された大学生生活で、大学生に広がる“周囲に合わせられない”不安感**
～オンライン化が長引く中、SNS世代であるはずの大学生は意外にもリアルな接触の減少に戸惑っている
～意思疎通がしづらい状況で、周囲から仲間はずれにされているのではという不安や危機感を抱く大学生が存在
- ② 不安払拭に向けて、様々なことに挑戦し貪欲に活動範囲を広げる大学生**
～SNSを上手く活用し、周囲との話題をなんとか保つ大学生
～自炊や資格の勉強など、未経験のことに挑戦する者や、大学を超えた交流やオンラインサロンなど、活動範囲を広げる大学生も以前より見られるようになっている
- ③ 様々な挑戦を通して身につけた、自分で考え・決め・行動する力＝“ボッチ行動力”**
～先輩に頼らず学びたいことを自分で考え履修を組むなど、自分の頭でしっかり考えるようになった大学生
～オンライン文化祭等新しい取り組みを積極的に行う、行動力を身につける姿も見られる
～また、特に親しくない友人との関係を見直したり、価値有るものを見極めてそれだけにお金を使うなど、自らを客観視して大切なものを見極める力も身についたといえる
- ④ ボッチ行動力で深めた自分らしさを表現し、広く世の中に発信する者も出始めた**
～自作の歌や詩、映像作品やイラストを通して自分らしさを形にし、SNS等を通して表現することに積極的になった大学生
～コロナにおける“帰省警察”、黒人差別やジェンダー問題と言った社会問題に対しても、自らの頭で考え、意見を表明する大学生が以前よりも見られるようになっている
- ⑤ 自分を持ちつつ他者も受け入れ協力する、“アベンジャーズ”な大学生の兆し**
～ボッチ行動力で自己を深めつつ、YouTubeやSNSなどで様々な価値観や行き方に触れる中で他人への柔軟性を育む大学生
～個々が自立しながらも、互いの強みを活かして協調する“アベンジャーズ”のような大学生が見え始めている

取組の概要

【調査主体】

大学生意識調査プロジェクト(FUTURE 2020)

- このプロジェクトは首都圏の大学でマーケティングを学んでいる大学生によって結成され、1995年より続いているものです。
(※FUTUREとは、Five Universities in Tokyo, Uni-REsearchの略です)
- 本取組における情報収集、検討・分析などの一連の作業は、すべて大学生自らが行いました。
- 本年の取組に参加した大学は以下の5校です
 - 青山学院大学
 - 駒沢大学
 - 上智大学
 - 専修大学
 - 千葉商科大学

【協賛・企画協力】

公益社団法人 東京広告協会

東京広告協会は上記プロジェクトからの要請を受け、取組実施にあたっての費用協賛や企画・技術指導などを全面的に支援しています。

【取組目的】

新型コロナウイルスの影響で大きく変わった日本社会。大学生においても、登校が禁止され授業はオンライン化、サークル活動や学園祭と言った学校行事の中止、アルバイトの削減や友人・恋人と会えなくなるという人間関係の変化、家族と過ごす時間の大幅な増加など、生活の様々な局面で大きな変化に直面しています。そんな環境変化に対し、大学生自身の意識や行動、考え方や習慣にも変化が見られたようです。本取組は、コロナによって大きく様変わりする環境に身を置く大学生の意識や行動変化を、様々なデータや事象から見出し、コロナ禍を生きる“ニューノーマル”な大学生の像を洞察することを目的としています。

【検討期間】

2020年9月～同年11月

【データ収集方法】

- デスクリサーチによるオープンデータ収集
 - 公開されている各種定量調査など
- 大学生の意識や行動に関する報道の探索
- SNS等で見られる大学生に関する(あるいは大学生自らの)投稿の探索
- 実際の大学生への簡易インタビュー など

【この資料に関するお問い合わせ先】

本内容は結果のごく一部です。その他の資料もPDFでご用意しております。

お問い合わせは下記までお願いします。

公益社団法人 東京広告協会 担当:高堀

〒104-0061 東京都中央区銀座7-4-17 電通銀座ビル7階 Tel:03-3569-3566(代表)